

## 2 研究の実際

### (3) 検証の視点

本研究では、以下のような仮説を立て、その仮説を基に思考力・判断力・表現力が身に付いたかどうかを検証することにしました。

思考力・判断力・表現力が身に付いたかどうかは、仮説にある自分の考えを広げたり、深めたり、確かなものにするのができたかどうかで判断することにしました。

**各教科・科目及び学校の実態に応じて、自分の考えと他者の考えを比較したり、関連付けたり、様々な考えを整理したりするような対話的活動に取り組ませれば、生徒は自分の考えを広げたり、深めたり、確かなものにしたりすることができるであろう。**

そこで、「1時間における生徒の変容」「単元における生徒の変容」について、以下のような検証の視点を設定しました。これらの検証の視点を基に授業実践を考察します。記述内容に関する評価の判定基準については、各教科・科目の「授業実践の考察」に記載しています。また、単元の前についての調査結果を「事前」、単元後の調査を「事後」と本研究では表記しています。詳細については、2 (2) ア (イ) 見取り方についてを参照して下さい。

#### 視点1:1時間における生徒の変容

対話的活動を取り入れた時間について、生徒の考えが広がったり、深まったり、確かなものになったりしたかどうか。

検証方法：ワークシート、リフレクション・シートの記述分析  
学習に関するアンケートの集計分析

#### 視点2:単元における生徒の変容

対話的活動を計画的に入れた1つの単元において、生徒の考えが広がったり、深まったり、確かなものになったりしたかどうか。

検証方法：ワークシート、リフレクション・シート、評価問題の記述分析  
学習に関するアンケートの集計分析